

東京都地方独立行政法人評価委員会 令和7年度第5回都立病院分科会 議事要旨

1 開催日時

令和8年3月23日（月曜日）から同月30日（月曜日）まで

2 開催場所

訪問またはWEB会議による持ち回り開催

3 出席委員 ※ 分科会長を除き五十音順

福井分科会長、井伊委員、大坪委員、児玉委員、坂本委員、本田委員、山口委員

4 報告事項

地方独立行政法人東京都立病院機構の令和8年度年度計画について

5 議事概要

【評価委員】

- ・ 14病院全体で人材育成や経営改善に取り組んでいく姿勢が見えて素晴らしいと思う。
- ・ 中期計画の集大成となる最終年度の計画で、災害医療や周産期医療、感染症医療、そして今後の拡大が見込まれる高齢者医療にポイントを置いている点も評価できる。
- ・ 産婦人科医と助産師の育成について、各病院の専攻医育成プログラムの連携を検討していたり、助産師を分娩件数の多い都立病院に派遣して経験を積ませたりなど、機構全体で育成を進めることができている。少子化で分娩の経験を積むことが難しくなっている中で、都立以外も含めて人材交流や研修によって周産期医療の維持・発展に努めていく必要があると思う。
- ・ 14病院が一丸となり都と連携して感染症対応をしていくとのことだが、コロナ最初期にどの病院が受け入れ可能なのか、病床の空き状況が見えずに混乱したので、都や民間、大学などの医療関係者に病床の状況などが可視化されると良いと思う。
- ・ 災害対応訓練は、病院だけで訓練するだけでなく、地域のクリニックも巻き込んで、地域全体で対応できるようにしていくことを考えて取組を進めてほしい。
- ・ 総合診療医について、これからは急性期以外の患者が増えるので、「都立総診スペシャリストコース（仮称）」を新設し、総合診療医を育成することは高く評価したいと思う。
- ・ 総合診療医が都立病院の中でどういった役割を果たしていくかについては、病院ごとにあるべき姿を検討しているとのことだが、内科医との違いを明確にできるとよい。

- ・ 総合診療医の育成については、何名をいつまでに育成するか、という目標を設定すべき。
- ・ DXについて、14病院で電子カルテのベンダーを統一することでサービスが向上すると思う。特に QI（医療の質に関する臨床評価指標）については、医療の質向上や研究にもつながるので、早急にオープンできるようになると良い。
- ・ ランサムウェアによる被害事例は増加している。病院は標的になりやすいので、対策をもう少し具体的に進めるべき。
- ・ 各取組のゴールの設定はよいが、その達成に向けた取組や達成度を図るための指標が曖昧な部分がある。達成状況の確認については工夫したほうが良い。
- ・ 予算について、全体の赤字幅がどれくらいであればよいかを考慮して予算を立てるべき。
- ・ 診療報酬改定に対応して、病院の仕組みや体制、目標値の設定を変えていかないといけないと思う。
- ・ 診療報酬改定について、看護は多職種協働加算が新設されるので、要件や提出が必要なデータを確認の上で、準備を進めてほしい。